

2024年1月11日

## シンポジウム

不登校当事者の実態とニーズを把握し、官民共創でつくる効果的な施策とは

# 長野県の取り組み

信州大学 教職支援センター

荒井英治郎



earai@shinshu-u.ac.jp

<http://kyoushoku.shinshu-u.ac.jp/arai/><sup>1</sup>

■ 社会貢献活動

- ・信州学び円卓会議・座長
- ・長野県不登校児童生徒等の学びの継続支援に関する懇談会・座長
- ・信州型フリースクール認証制度検討会議・座長
- ・長野県教員研修体系作成会議・委員
- ・長野県公立高等学校のあり方等懇談会・座長
- ・長野県働き方改革検討委員会・座長
- ・長野県夜間中学設置検討会議・座長
- ・長野県青少年問題協議会・会長
- ・長野県県立高校「未来の学校」構築事業・アドバイザー
- ・これからの長野県教育を考える有識者懇談会・委員
- ・長野市総合計画審議会・委員
- ・長野市教育振興基本計画・生涯学習推進計画策定委員会・会長
- ・松本市教育顧問
- ・松本市教育振興基本計画策定委員会・会長
- ・松本市教職員研修計画検討会議・座長
- ・塩尻市子ども・若者応援協議会・会長
- ・飯田市キャリア教育研究委員会・委員
- ・須坂市小中学校適正規模等審議会・副座長
- ・諏訪市教育振興基本計画策定委員会・委員
- ・朝日村立朝日小学校学校運営協議会・委員
- ・経済産業省「未来の教室」実証事業・助言者
- ・長野県公立小中学校事務研究会 全国・関ブロ大会レポート作成委員会・助言者
- ・評議員(学校法人軽井沢風越学園、長野県松本県ヶ丘高等学校)



# ○本日の内容○

## ●はじめに

## ●長野県の取り組み

①不登校児童の学校以外の「まなびの場」支援事業

②不登校児童生徒の学びの継続支援事業

ー不登校児童生徒の学びのサポートガイド「はばたき」

ー子ども・保護者・学校・市町村を結ぶ対話ツール「コミュニケーションシート」

③信州型フリースクール認証制度

## ●おわりに

# ●長野県の取り組み

## ■ 長野県教育委員会

- ・平成30年3月:「不登校未然防止および不登校児童生徒への支援のための行動指針～児童生徒が自らの進路を主体的にとらえ社会的に自立するための支援を目指して～」の策定
- ・子どもたちの社会的な自立を支援するための「不登校への対応の手引き」(令和3年改訂版)の発出(→令和4年改訂版)
- ・令和4年3月:「はばたき～不登校児童生徒の学びのサポートガイド～」(vol.1)の作成→仕組みづくり、出席扱い
- ・令和5年3月:「はばたき～不登校児童生徒の学びのサポートガイド～」(vol.2)の作成→仕組みづくり、学習評価

## ■ 長野県県民文化部

- ・令和3年度:不登校児童の学校以外の「まなびの場」支援事業
- ・令和6年度:信州型フリースクール認証制度

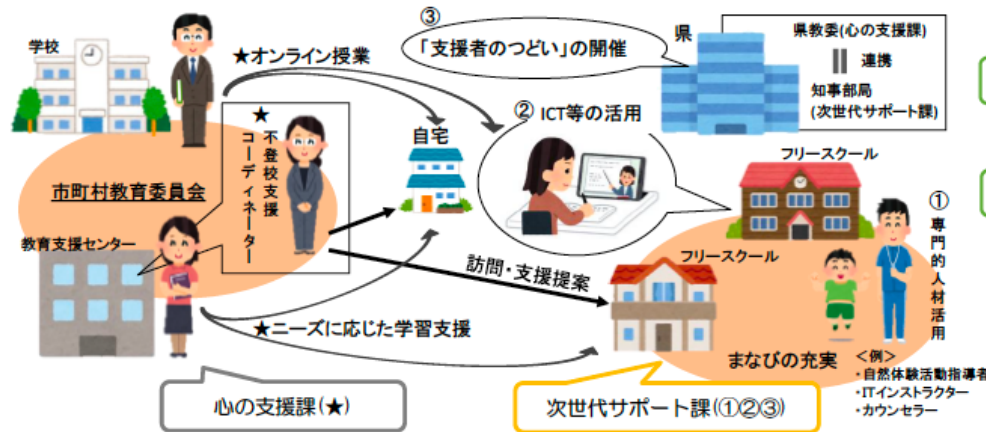
# ①不登校児童の学校以外の「まなびの場」支援事業

## 不登校児童生徒の学校以外の「まなびの場」支援事業

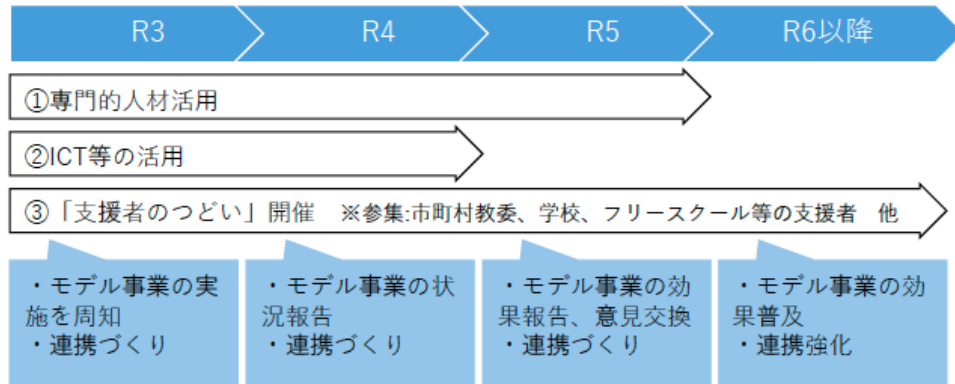
次世代サポート課

資料5

<不登校支援モデル全体図>



<事業スケジュール>



### めざす姿

不登校児童生徒の「まなび」が保障され、地域の教育資源として社会的に認知されたフリースクール

### 事業の目的

市町村・学校と連携し、専門的な人材を活用したまなびの充実を図る

### 取組の内容

R4予算額 3,400千円

- ①専門的人材活用に対する経費を支援 (1,200千円)  
(県内4地区各1施設。同施設で3年間実施)  
・専門性のある外部講師等の活用に係る経費を補助  
・不登校児童生徒のニーズは不登校支援コーディネーターと連携して把握
- ②ICT等活用した学習に要する経費を支援 (2,000千円)  
(県内フリースクール1施設1回限り)  
・フリースクールにおける環境整備に要する経費を補助  
・学校と連携し、ICT等を活用した学習支援や学習評価等の仕組みづくりを行う
- ③不登校児童生徒の支援者のつどいを開催 (200千円)  
(県内2地区で開催)  
・地域の支援関係者の連携づくり  
・不登校支援モデルの効果の普及

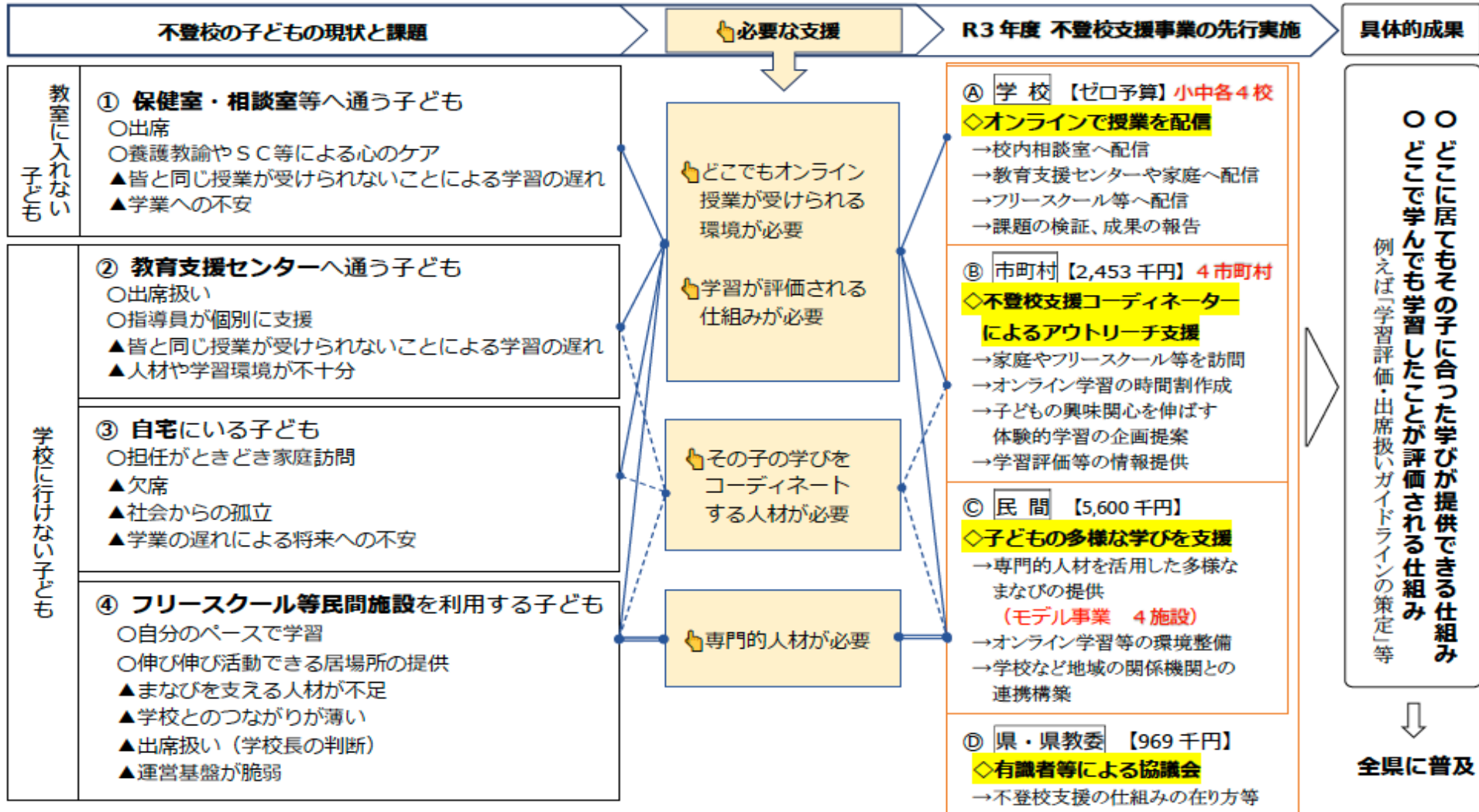
### 事業の効果

- ◎不登校支援コーディネーターとの連携などにより、これまでできなかったまなびやプログラムを提供することで児童生徒の成長を実感  
⇒積極的な運営に対する意欲が向上、まなびの充実
- ◎不登校支援モデルを通して作成する「不登校児童生徒の学びのサポートガイド」を参考に学校とフリースクールが積極的に連携  
⇒不登校児童生徒への理解促進、子どもの学習や活動に対する意欲が向上

# ②不登校児童生徒の学びの継続支援事業

[目的] 不登校児童生徒の学びを継続できるようにするため、多様な学びの場を提供し、その学びや活動を評価する仕組みづくりを行うこと

- [不登校の状況] ◆不登校児童生徒在籍比率が継続的に増加 H27：2,209人→R1：3,551人（文科省調査）  
 ◆フリースクール等民間施設を利用する子どもが増加 H29：94人→R1：166人（県調査）  
 ◆不登校は問題行動という意識が根強くある（支援者等の声）



## ②不登校児童生徒の学びの継続支援事業

### —不登校児童生徒の学びのサポートガイド「はばたき」

#### ■「はばたき」(vol.1)の作成

##### ●多様な学びの機会を保障する仕組みの事例

[事例1] 不登校支援コーディネーターとスクールソーシャルワーカー(SSW)との連携

[事例2] フリースクール等民間施設と連携した支援体制の構築

[事例3] 地域資源を活用した多様な学びの仕組みづくり

[事例4] 不登校の子どもの状況やニーズに応じた学びの環境づくり

##### ●不登校児童生徒の多様な学びに対する学校の支援

(1)出席扱いの判断及び評価について

(2)出席扱いの判断及び評価をする際の基本的な考え方

## ②不登校児童生徒の学びの継続支援事業

### —不登校児童生徒の学びのサポートガイド「はばたき」

#### ■ 「はばたき」(vol.2)の作成

##### ●市町村における多様な学びの仕組みづくり

[取組1] 教育支援センターを中核にしたコーディネート機能の充実

[取組2] 教育支援センターから自宅へのアウトリーチ支援の拡充

[取組3] 教育委員会・学校と民間施設等による情報交換会の開催

##### ●不登校児童生徒の学びに対する支援と評価

[事例1] 「校内サポートルーム」における学びに対する支援と評価

[事例2] 自宅におけるオンライン学習に対する支援と評価

[事例3] フリースクールにおける学びに対する支援と評価



# ②不登校児童生徒の学びの継続支援事業 一子ども・保護者・学校・市町村を結ぶ対話ツール 「コミュニケーションシート」

## 学校に行きづらい子ども・保護者と学校を結ぶ コミュニケーションシート

### はじめに

子どもが不登校となり、学校（先生）とのやりとりで困ったこととして「欠席の連絡を毎日学校にしなくてはいけないのが苦痛」「欠席連絡をしないでいると学校から電話がかかってきて、欠席する理由を子どもに聞かなくてはいけないのが地獄」「その電話がもととなって、子どもが家族やものにやつ当たりする」「給食費や教材費等の徴収を止めてもらうよう言ったのに、なかなか止めてもらえない」といった声が保護者から聞かれます。（\*）

一方学校（先生）にも、「教育支援センターやフリースクール等外部機関を紹介することや、給食費や教材費の徴収を止めることを提案することで、子どもや保護者が学校から見捨てられたと感じてしまうのではないか」といった声があり、学校（先生）と保護者との意思疎通の困難さが指摘されています。

このたび「学校とのやりとりに関する依頼文フォーマット」を作成された神奈川県川崎市の特設非営利活動法人「多様な学びプロジェクト」にもご協力いただき、「学校に行きづらい子ども・保護者と学校を結ぶコミュニケーションシート」を作成しました。

このシートは、今まで保護者の方が電話連絡や支援会議等で学校にお伝えいただいていた、お子さんに関わる様々な事項や願いを、学校と共有しやすいように項目を設定し、学校における支援が双方にとってより明確になるよう工夫しました。

このシートをご活用いただき、学校と子ども・保護者の円滑なコミュニケーションが図られることを願っています。

\*「学校とのやりとりに関する困りごとアンケート報告事例集(速報版)」(特定非営利活動法人「多様な学びプロジェクト」)より

不登校児童生徒等の学びの継続支援に関する懇談会



## 「学校に行きづらい子ども・保護者と学校を結ぶコミュニケーションシート」

令和 年 月 日

(学校名・担任名) 先生

お子様のお名前 (保護者のお名前)

(※ 子どもの状況により変更する場合があります)

### 01 保護者と子どもの今後の願い (今後の目標) については、次のとおりです。

#### (1) 子どもの願い

- 学校への登校  学級への登校  学級以外の教室への登校  意欲の充電  
 教育支援センターやフリースクール等学校以外の場所への登校  
 自分で選んだ場所で勉強を続けていく  その他 ( )

#### (2) 保護者の願い

- 学校への登校  学級への登校  学級以外の教室への登校  意欲の充電  
 教育支援センターやフリースクール等学校以外の場所への登校  
 自分で選んだ場所で勉強を続けていく  その他 ( )

### 02 保護者から学校への出欠席の連絡は次の通りをお願いします。

#### (1) 学校への連絡方法について

- メール  電話  FAX  他の児童・生徒を通じてお伝えします  
 その他 ( )  
 保護者からの連絡が難しい

#### (2) 学校への連絡の頻度について

- (出欠に関わらず) 毎日連絡します  欠席する場合のみ連絡します  
 登校する場合のみ連絡します  その他 ( )

### 03 保護者から学校への出欠席の連絡は次の通りをお願いします。

#### (1) 学校からの連絡の頻度について

- 毎日、電話連絡 / メール でお願います  
 毎日ではなく、週に数回の 電話連絡 / メール でお願います  
 週に1回程度の 電話連絡 / メール でお願います  
 月1回程度の 電話連絡 / メール でお願います  
 その他 ( )

#### (2) 学校から連絡をいただく方について

- 担任の先生  担任以外の学年の先生  保健の先生  スクールカウンセラー  
 スクールソーシャルワーカー  教頭先生  校長先生  
 特定の先生 (〇〇先生)  その他 ( )

#### (3) 登校を促すための子ども本人への連絡方法について

- 今は行わないでください  本人が希望する場合は行ってください  
 本人に学校から連絡が必要な場合は、事前に相談してほしい  
 その他 ( )

## ③信州型フリースクール認証制度

目的:不登校児童生徒等の「学習権」を保障していくために、  
[フリースクール等の民間施設]

- ①社会的自立を支援していく観点から、子どもたちや保護者の「思い」に寄り添い、
- ②信州の「豊かな学習環境」を活かしながら、
- ③「自由で多様性に富んだ学び」の機会を保障していく。

[行政]

- ④「認証」(「居場所支援型」、「学び支援型」という形を通じてフリースクール等に対する運営経費や運営体制への支援を行うとともに、
- ⑤子ども・若者・支援者等の当事者の意見を聴きながら、制度の改善に取り組んでいく。

→ 共に育てていく制度

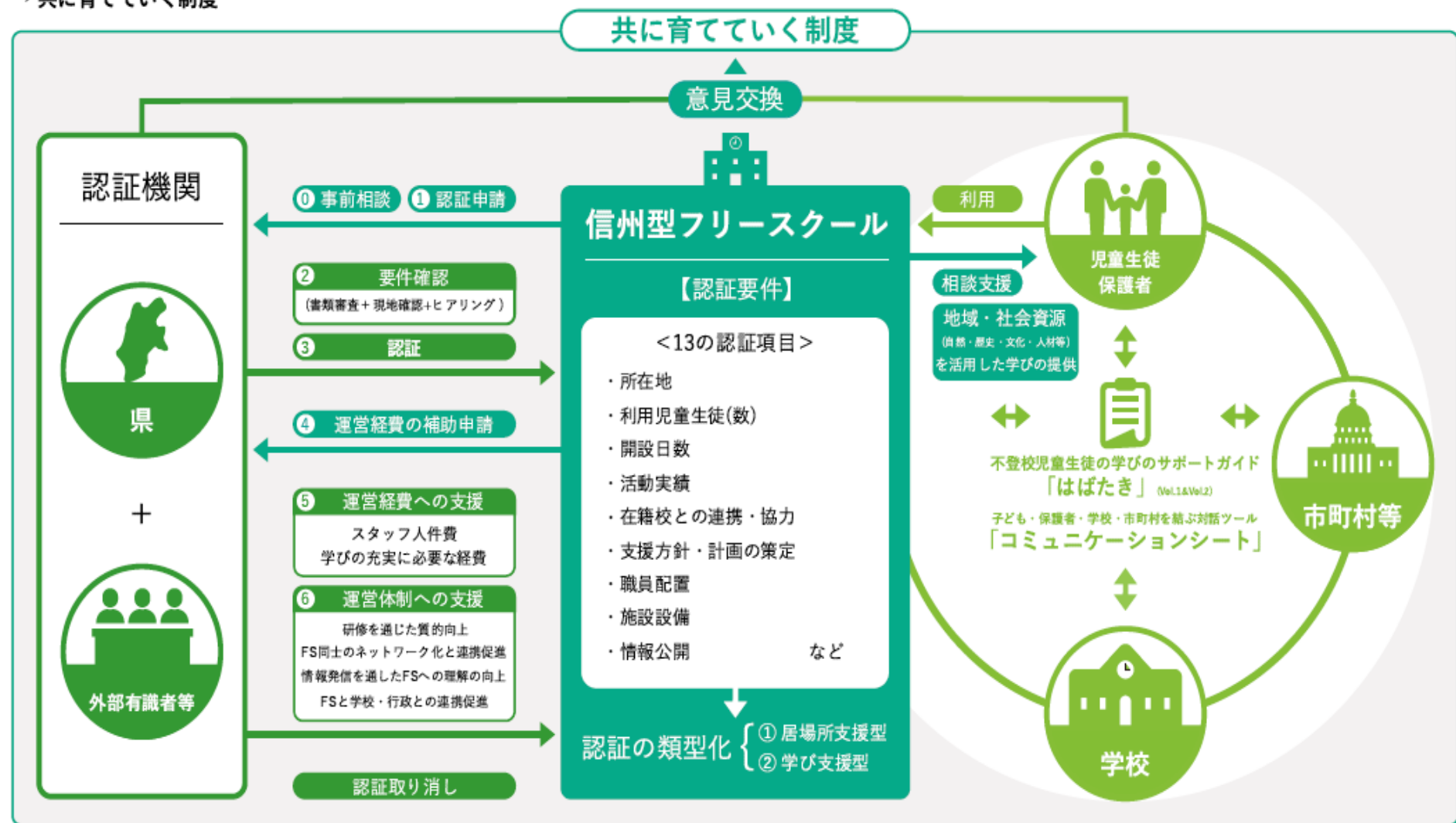
# 「信州型フリースクール認証制度」の運用イメージ

不登校児童生徒等の「学習権」を保障していくために、

フリースクール等の民間施設が、①社会的自立を支援していく観点から、子どもたちや保護者の「思い」に寄り添い、②信州の「豊かな学習環境」を活かしながら、③「自由で多様性に富んだ学び」の機会を保障していく。

行政が、④「認証」という形を通じてフリースクール等に対する運営経費や運営体制への支援を行うとともに、⑤子ども・若者・支援者等の当事者の意見を聴きながら、制度の改善に取り組んでいく。

→ 共に育てていく制度



### ③信州型フリースクール認証制度

- ①子どもや保護者が持つ様々な学びの希望・保護者の思いにより添うために、出席扱いとなる利用児童生徒がいることは問わない。
- ②信州の豊かな環境・地域に根差した学びを実践するために、地域・社会資源(自然・歴史・文化・人材)の活用を推奨する。
- ③多様な学びや活動を後押しするために、それぞれの役割に応じて、認証を類型化する(「居場所支援型」、「学び支援型」)。
- ④認証フリースクールの学びの充実を促すために、研修・情報発信・連携促進等、運営をトータル支援していく。
- ⑤こども・若者等の意見を聴きながら、改善に取り組み、こども・若者と「共に育てる制度」を目指す。